

副島種臣 （その名） 舊佐賀藩士、政治家。文政十一年九月九日肥前國生

乳、明治二十八年一月二十一日歿（八六―九五）。舊姓枝吉、幼名一

（次）郎、龍種。號一々學人、蒼海、筆名一一學人種臣、一一學人種臣、

副島種臣、副島種臣、副種臣、蒼種臣、種臣生、種臣老人、菅原朝臣

種臣、菅原種臣、菅原種臣朝臣、菅參、菅種臣等。嘉永二年寶兒枝吉

神陽の桶公義祭同盟に参加。のち藩豊教授。慶應二年大隈重信と共に

脱藩。翌年新政府の制度事務別事となり、福岡^{たけふか}兄弟と政體書を起草。

明治二年參議、四年外務卿、六年征韓論を主張して下野、翌年民撰議

院設立建白書を連署。十一年宮内省御用掛一等侍講、十七年伯爵。爾

後宮中顧問官、樞密院顧問官、内相兼任。漢詩人、能書家として聞え、

持説を有した。

著書『近世詩文・第一集』（合著・楡崎隆仔編、明治十年十一月大阪

・鹿田^{しかた}静七出版）、『五十名家語録』（合著・平田骨仙撰、明治二十

一年十月十二日平田勝馬刊、鐵華書院）、『精神教育』（佐々木哲太

郎校、増訂第五版・明治二十四年十一月十七日靜世館）、『蒼海遺稿』

（道正輯・^{武井}鈴木於菟^之校、明治二十八年五月十五日佐々木哲太郎編

刊）等。文獻、丸山幹治著『副島種臣伝』（昭和十一年二月二十日大

分社）等。